

慶長年録

二十年改元
元和元年
七月迄
八



庫	文	閣	内
一六三函架	三〇七八冊	五	和書類



内閣文庫		
番號	和	30785
冊數	6 (6)	
函號	163	182

共六



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



Kodak, 2007 TM, Kodak



市陳押

一番

酒井大進尉組

松平甲斐守

松平古休

弥津小五郎

水谷伊勢守

仙石大和守

相馬大膳亮

二番

本多忠雲守組

真田河内守

清野宗女心

榎村主膳

一宮宮内少輔

秋田城守

三番

柳宗達江守組

小笠原若狭守

仙石兵部

六卿兵庫助

松下石見守

須賀持津守

松平丹波守

小條出羽守

成田左衛門尉

丹羽五郎左衛門

夏陳^二は

酒房兵部少輔

保科肥後守

小室宗兵衛大輔

同 佐濃守

飯田能光守

田番 古井大頼頭組

佐久間儀前守

岡大膳心

羽柴貞作守

堀淡路守

筒井之助助

溝口伊豆守

高力左近

小糸久之常

由良伝次守

五番 酒井雅樂頭組

細田玄蕃助

牧野駿河守

脇坂直水心

古方掃部助

新庄越前守

松平伯耆守

多居玄次守

稲垣平右衛門

市旗本大普頭

安部儀中守

古波山城守

松平丹後守

市書院普頭

青山伯耆守

水野隼人

松平越中守

市小姓組頭

水野監物

井上玄斗頭

成瀬豊後守

市跡儀

市 安夜對馬

市 跡但交陳之 市 先由 市 多依波之組

市 本多大隅

市 前田大和

市 菅谷左衛門

市 武川 元

市 由利 元

市 弓市法地頭元也

市 市不極市依之大昔頭

市 水野後波

市 立花左近

市 日根織部

市 那須 元

市 津 元

市 南 元

市 津 元

市 松平石見

市 松平出雲

市 同 之 膳 心

市 友田 膳 心

市 友田 膳 心

市 秋 元 膳 心

市 坂 膳 心

市 坂 膳 心

市 坂 膳 心

市 坂 膳 心

市 奇合組頭

市 旗奉行

市 遠奉行

市 見勘右衛門

市 使書

市 横田 見勘

市 志田 見勘

市 服部 權太夫

市 清水 權太夫

市 永井 右近

市 庄田 三之次

市 大久保 義太夫

市 小栗 又市

市 初麻 傳右衛門

市 奥山 伝右衛門

市 同官 権太夫

市 系田 伝右衛門

市 西尾 丹後

市 保坂 全右衛門

市 小坂 新助

市 山本 新助

市 城 和泉

市 鈴木 久右衛門

市 本多 友右衛門

市 佐久 同河内

市 佐久 同河内

山城宮内補

川野左衛門

足恒大将

坪内宗多あし人侍

酒造孫あし人助

市普清奉行

依成駿河

市繁あし人守

中根春茂

市目分

瀧川豊前守

永右丹後

あし人 計西人市陳中斗足恒大将

松浦市右衛門

安部江兵衛あし人侍

市田あし人守

室賀源七市

村田權右衛門

加、凡氏親補

花井左衛門

豊清あし人主膳

日下親五市人

牧野清之侍

市歩以頭

松平内膳正

阿部左馬助

松平右馬助

三井左衛門依

將軍極市親奉行

三枝古依あし人侍

あし人 市陳中斗足恒大将

同市親奉行

小林勝之助

永津梅子助

多門總辰助

市使番

鴨殿石見書

中川才助書

山田五郎作

中山勘解由

山田十次郎

海江外記

川口長三郎

阿倍比常五郎

市目付

山田五郎作

幸礼右衛門

久見忠右衛門

阿部比常五郎

村瀬右馬助

青山石見書

渡邊比常

永田左衛門

今村彦三郎

小沢源三郎

藤松源三郎

近藤勘右衛門

石川又比常

安藤治右衛門

相澤源六

永井源右衛門

木村源三郎

加茂伴藏

高木九三郎

市持弓

内藤右衛門

市持尚

青山比常

大組

内藤若狭書

足輕大將

三枝右衛門

近藤石見書

中多壽右衛門

久永源三郎

細井金三郎

森川金三郎

駒木根右衛門

布部孫三郎

倉橋内通

横田甚右衛門

長瀬左衛門

大市所採り歩歩り既

大市所採

榎村志摩

市書院市小姓組より配

松平右衛門

諸道具奉り

一様炮

弓

甲

但及陳より中山へ湯使番より作付

及陳より諸道具奉り

内蔵主膳

秋之但馬守

秋山平左衛門

中山勘解由

山角又玄清

作付

松平豊前守

但馬守中組

板倉周防守

安了孫一と記述

荒川又六

神谷与七

伊賀新十

神谷与七

小野源右衛門

荒川又六

山角又玄清

石川市右衛門

秋山平左衛門

宿別

浅井六之助

五味全七

栗山五右衛門

須田源右衛門

市川辰右衛門

吉山小右衛門

高田小次郎

飯河左衛門

市幕奉り

羽衣宗左衛門

内蔵平左衛門

市留守冬

上総介辰井与力丸

松平中野守

名居左衛門

前田玄蕃助
村上周防守
海江伯耆守

宿上 駿河 内 坂 馬 助

加 藤 左 馬 助 黒 田 龍 前 守

谷 出 羽 守 平 野 遠 守

谷 出 羽 守

谷 出 羽 守

谷 出 羽 守

谷 出 羽 守

谷 出 羽 守

谷 出 羽 守

谷 出 羽 守

谷 出 羽 守

谷 出 羽 守

谷 出 羽 守

谷 出 羽 守

谷 出 羽 守

谷 出 羽 守

谷 出 羽 守

谷 出 羽 守

谷 出 羽 守

谷 出 羽 守

谷 出 羽 守

谷 出 羽 守

谷 出 羽 守

軍 法

一 喧嘩は論堅止し上若於遠肖軍を編理此双方

一 其に殊得き一或ハ親類縁者此あるみとな成り

一 知事の好より荷担し族於有統々用捨においてハ

一 後日にお受たり人てを多科事

一 先子成指紙紙改令高名肖軍法上して受罪科事

一 附先子にお理る相見を不て出さ

一 其細子在地へ備へお更事有くハ武具馬をて取

一 若き人及吳儀を其曲事より可事

一 人数押し時服道仕へりりりり一堅てり得

- 一 諸事奉り人々中自不て遠肖事
- 一 財に便ししりて何所を指さししふし遠肖事
- 一 持遠の軍及び外より召長柄を召金持より一々但長柄外より召るにあつては主人の馬とて召ふ事
- 一 陣中にあつては銭を可取致事
- 一 押買狼藉より一々若遠肖の族にあつては見合に敗す事
- 一 小荷站より河次中右の方へ付る相通軍勢に足更候に兼日喫て付事
- 一 毎夜に戦地へ通ふお更てわ一年戦走馬以下同前

し事

右に條々若遠肖の軍とあつては又罷科者也

安長十九年十月日

一 河次中右の方へ付る相通軍勢に足更候に兼日喫て付事
 一 毎夜に戦地へ通ふお更てわ一年戦走馬以下同前
 一 小荷站より河次中右の方へ付る相通軍勢に足更候に兼日喫て付事
 一 持遠の軍及び外より召長柄を召金持より一々但長柄外より召るにあつては主人の馬とて召ふ事
 一 陣中にあつては銭を可取致事
 一 押買狼藉より一々若遠肖の族にあつては見合に敗す事
 一 財に便ししりて何所を指さししふし遠肖事
 一 諸事奉り人々中自不て遠肖事

目錄

- 一 大坂再乱
一 和列勤園
一 道明寺合戦
一 本村山口首利末
一 本多雲列并小笠原父子討死
一 市合戦市勝利
一 城炎上
一 生捕等成敗
一 元和元年

一 正月朔日二日六日 市来节事

一 正月朔日 附巾給仕 諸大吏 元布衣 将衣 来脱 五日 可也 長
一 袴事

一 二月二日出仕 元長袴事

一 三月朔日より 給着 用 子 脱 臨皮事

一 五月五日 深帷子 長袴准 六月十六日 由 嘉祥

一 七月七日 白帷子 袴准

一 八月朔日 折紙 長袴 忌 用 但 五子 石 以上 湯 乃

一 折紙 進上

一 九月朔日 八日 迄 給着 用 同 九日 湯 小 他 國 日

より 臨皮 巾 赦免 并 九月朔日 同 九日 長袴 着 用

一 十月湯 猪子 七々 長袴 着 用 事

一 四月朔日二日六日 所求事
 一 四月三日 所求事
 一 四月四日 所求事
 一 四月五日 所求事
 一 四月六日 所求事
 一 四月七日 所求事
 一 四月八日 所求事
 一 四月九日 所求事
 一 四月十日 所求事
 一 四月十一日 所求事
 一 四月十二日 所求事
 一 四月十三日 所求事
 一 四月十四日 所求事
 一 四月十五日 所求事
 一 四月十六日 所求事
 一 四月十七日 所求事
 一 四月十八日 所求事
 一 四月十九日 所求事
 一 四月二十日 所求事
 一 四月二十一日 所求事
 一 四月二十二日 所求事
 一 四月二十三日 所求事
 一 四月二十四日 所求事
 一 四月二十五日 所求事
 一 四月二十六日 所求事
 一 四月二十七日 所求事
 一 四月二十八日 所求事
 一 四月二十九日 所求事
 一 四月三十日 所求事

慶長元年三月十六日板倉侯方より大坂
 敵軍出張して京師へ大入りし。一 同安有
 修く内裏院中を初て賀敷とくく。上下強動
 斗ふ。一 別所侯押込及堂和泉本多氏濃松平下総
 東寺・陳取替中を守護和泉押込ハ濱大坂人致
 せし。一 西橋を守護。姓来し人々改不渡
 大市市極ハ四月に日坂府へ出陣し。將軍極ハ
 四月十日江戸へ出陣。大市市極尾張へ平岩と斗
 居發。中に日坂城内府右兵衛督及中殿を海士に日
 名獲居を申出。同十八日申入洛。將軍極ハ廿一日伏見

の城は市布

一廿二日、あ市布二條、中城にて軍中決定に方、
軍勢系集り、諸將市目見へ

一系極若列、市母儀常、高院を市使大坂、
秀頼、市事、勢、殊、三、不思、
紙、市、破、り、得、る、ふ、及、是、北、市、出、陳、
上、り、て、市、和、談、終、有、
き、と、い、
一、同、廿、六、日、大、野、主、馬、助、為、大、將、
那、山、の、古、城、を、焼、く、
一、同、廿、六、日、大、野、主、馬、助、為、大、將、
那、山、の、古、城、を、焼、く、

一、同、廿、六、日、大、野、主、馬、助、為、大、將、
那、山、の、古、城、を、焼、く、

一、同、廿、六、日、大、野、主、馬、助、為、大、將、
那、山、の、古、城、を、焼、く、

一、同、廿、六、日、大、野、主、馬、助、為、大、將、
那、山、の、古、城、を、焼、く、

一、同、廿、六、日、大、野、主、馬、助、為、大、將、
那、山、の、古、城、を、焼、く、

一、同、廿、六、日、大、野、主、馬、助、為、大、將、
那、山、の、古、城、を、焼、く、

一、同、廿、六、日、大、野、主、馬、助、為、大、將、
那、山、の、古、城、を、焼、く、

一、同、廿、六、日、大、野、主、馬、助、為、大、將、
那、山、の、古、城、を、焼、く、

一、同、廿、六、日、大、野、主、馬、助、為、大、將、
那、山、の、古、城、を、焼、く、

一、同、廿、六、日、大、野、主、馬、助、為、大、將、
那、山、の、古、城、を、焼、く、

一、同、廿、六、日、大、野、主、馬、助、為、大、將、
那、山、の、古、城、を、焼、く、

岩城の飛脚にて中をこし筒井俘賀も父子於岩城
切腹す同廿七日南江寺田迄を焼拂

永書

依く宗淳曰

俘賀も定次八万石俘賀上野
元和元年し卯三月五日自殺大座
寺大慈院有石依大雲用公大居士
妻ハ市場殿寛永十年二月廿六日
卒法名玄光院妙雲世人初嫁荒
川甲斐也

依く隨筆ニ市場殿ハ筒井城ハ幼子紀伊也
妻也紀伊也子多良二男正信御勢ト云其子
方男也

一 松倉豊後も八十里斗隔より糸とくふ所有る
筒井方も免れ若来召則亦立逆逆の云と僅
まゝいへとも更に不令同公友堂将監斗地来て
同道奥田ニ帝右衛門宗良も地来て翌日地かつり

敵軍ハ宗良を焼拂ひてり由にて先子の敵お
やさし追押出来是ハ大工才升大和太政の事を色々
同来ハさん云巾巾中より一是を次るふを
追討ナリ是を見えて宗良此代友中坊方追討
市を坊ハ宗良を地と云所トのくを甲し
人押入上の巾道具申坊々道具悉令死妨
一 宗良ハは松倉十太夫奥田ニ帝右衛門を立敵ハ那
山ニ本陣を居りて松倉豊後大勢にて那
妻来由中夜中ハ國府ハ河を松倉妻来
方皆門を以て後陣ニ沙者漸く七人生捕

未三月一人ハ獲武者六人ハ難玄ナリ別々除
得別討死ハ同清左衛門トナ者ニモセシメ
條ハ中城ハ進上中是今度欲ヲ打取初ナリ
市意にて中血系ハ作付清左衛門ニ英令
豊後方ハ感状て是中ハ作付然トモ松倉
何好ハ式後日ハ感状不モハ
四月廿七日大市下極二條ハ成中諸將
石本多上野安友等ハ成瀬早人等ハ中子
王ハ作付將軍極ハ伏見の中城ニ成
中諸將等ハ中子王ハ成瀬早人等ハ

大坂攻めハ作付

一市光子ハ寺番極夜堂和泉等二番極并
掃部頭大和ハ水野日向并大和元大和ハ
王ハ王リ砂にて右ハ二組ト子を含て
成中ハ作付併勢組ハ本多英濃ハ分英濃
組ハ松平下総ハ付て被出張中ハ作付
四月廿八日和泉等ハ被出張ハ掃部頭ハ
伏見ハ出張ハ柳原遠江組ハ本多出雲組
少將及元加賀籠番等ハ人殺修出張
一五月朔日大市下極出張ハ成中ハ付市光

倭の舟多依渡と組舟多大隅之花た迫留
大和春日根野織勢正菅谷た出の依秋本越中
坂崎出将も那須元由利元武川元津令元
由旗本の由先打あて木津三陈元
大市不極二條も十町斗由出の如く大坂も亀城仕
の者城中も忍ひ出由忠臣で中と戦有く中
板倉伊賀も方へ来伊賀も計由云上仕とつ
て別今日の由立由延引も成右も者ハ若年
乃時秀忠公も奉る中と少不廢居の事あ
るて清原を令大府系如に在る今度大坂

亀城仕る何くそ関東も清忠臣中上瑞系仕
度由板倉伊賀も方へ中通の由大坂城中(要)
別城中にて石籠立中も色くそ倭云惣
同あといくゆりされ由居中も如く大坂も
城もてうくうり大市不極由出張跡に
内裏を初あふ小太をうけ焼くて中ぬ又去
年のことくあ方も清出張は成り

大市不極も由本陈(大坂元切)より一方にて
有無の勝負を交して中と相極の計事をせ
中と好める系上仕の由中も中三日由追留

成成有く大付を悉く尋出——巨捕あり又中
てくくもくりり 大市市極大和路を之に出
て上総介及誠後元佐濃元奥列元く大將にて
奈良通より中押成成

一 五月五日 大市市極二条く中城を中立成星
田二市省成將軍極伏見を中立隅南に中着
一 同日大和元水野日向組を松倉豊後守保
長二市別不孫次市奈良山伊賀守同左衛門同
元通本多元系秋山右近友堂將監亦國府へ
出張より丹羽勘助堀丹後相討くして出張上総

夜に改宗いひまゝ奈良に陳元水野を家老に
い先へ國府へ系陳元取斤倉小十市大勢を
國府の南に山くく小陳取本多員濃ハ伊勢
組の大將十りそ元ハ一柳監物古田大膳分那
元系後沼織部織田三十市松平下総守ハ元
濃組の大將佐永元馬く助遠友但馬達元高
西尾より元元水野く國府へ着陳元
一 六日く曉方夜より歌陳たいまつに
夜井寺連令出張家山ていまつと消く押
来けにい先陳ハ後友又元勝松元玄蕃父子

山川等ノ北川次帝ニ誘高田集人井上小堀
ホナリ平野ヨリ道明寺の庁山ニ押上候
炮を折掛モ先ハ後夜内庁山廻リ場ノ者
白旗ニ燕紋ニ一書小堀松倉豊後奥田ニ帝
大出是ニ馳合合戦モ初捷組松倉元後陳待合
一同懸山如令陣定山如奥田中ノ是本助
井上ニ帝ニ誘高田中ノ集人元目の家ニ誘合
後陳モ不て待と中て一書小進ニせり合戦
を突くモ一書入て折死モ奥田是を見て先
陳の宰人元皆折死させ陳何モ不て待やと

奥田松倉元一別小懸款を返立山如高田後夜
間モ入入留山同奥田ニ帝在出の神子田に帝
去誘阿波保々場ノ野道ニ初味方悉付死
中多た京子波敗軍山如水野日向子子并塘
丹後改宗内庁倉小十帝元後入合戦
殺割十リけにの中使書中山勘解由村瀬大馬助
も同おはし京子波中先陳の大攻元後夜又々場
高田集人井上小堀の家ニ先達ニ誘松倉
元塘丹後元中多た元後元分死た京元突懸案
後より死切山同後夜又々場ハするりの甲小

お六寸の牛角を金にておろしをえし主従
十一人斤山の上ふありし政宗の子と懸合
隙を負うるふゆしと思ひしまは金馬平奪つ
云者首をおせ田の中へかくしるを見て
恥を是をて居上り藤田軍人首の水野
日向流る大坂の先陣を捕しる居る部
羽石押部長是より市小倉依る所を為後清大
坂を出張して道明寺前石川河原を前ふあて
陣を取大野修理福清伊豫國武蔵志田なる
渡邊内務助森豊前大谷大守伊本七市右衛門

同勢とありて道明寺小陣を是の敗軍お
是に馳加はり戦ひしに

一 同六日同割木村長つちを是より若江村へそれ
小おはし山にたる助内夜新十木村を斗場回
を是より長為我部入る矢尾村久法寺の同北を南
へ一里斗つちを押おき

一 和泉守押部氏も平野遠は是より惣敷の同道明
寺へ向て一戦し由りて令出張の如く木村長曾
家那以下是を見えて久法寺の川を東西に戦
懸來同道明寺へくりおき人殺をふし一

我を初掃部元和泉元矢尾若江小おいて原ノ
別々年ノ別々合我

一 木村長門若江の西那の同小馬をたてゆ
ころ小友堂玄蕃同新七懸合敷別合令合我
右二人討死友堂和泉中筋を押来せり
合惠寺勝掃部元木村長門右二人先へ
り自身逃乞入防我ひ及敷別々掃部子一書
首を折れ并生捕之人仕 大市町探入進上中
掃部子一山に候馬吉川子産之市家前付
死山にハ象湯勘氣と武別生誠の寺に因居仕

張在の地今度思ひて今在陳掃部子加りり
従ふ人一不、折死吉川子産之市とハ比ハ
忠次市とハ是ハ松平石見也掃部家来
大市町為養子掃部家中、張在の地、去年中合我
時、張在とハて誠元掃部元家前、堀へ
着ゆ乞 大市町探入因成又石見也、今
うろつた者うろつた者、今成ゆ乞、今
度ハ我人教をハ掃部旗と守を、今成ゆ乞、今
自身ハ一人、今晴成付死あり、木村長門、今
左馬助も今日を家後、今甲の思ひの、今

きり出ぬ間一足も引まゝと敗軍を下知し
て入替りて防戦す山に左馬助ハ八田金十郎
云者是ヲ突伏首を斬る村長門ハ掃部先母の
大將唐系助右衛門ト稱せ合助右衛門長門也突
伏ハ奴ニ長門記あり立向ふ女後帝ニ帝ト申
者助右衛門うさひありけしか我々中
津川助右衛門及今羽よりなれども合我ハ
子に合不中の間是非我ハては下申す長帝
首を斬る中の助右衛門と長門を見知不し
長二帝ト云へば後悔の氣ありといふ大聖人

武勇たしあるふりる者るは事と深くかく
しりて追中討終に後述沙汰いさすす
那家中にていさく好い者も有いて助
右忠を感しりし掃那子先陳ハ本股去休
時清那忠の十りとつて冬中陳ハ惣責く時
帰下にて子も負今度ハ系相る系ハ討清
那忠の組も唐系助右忠の石連系ハ教度
名仕ハ款方の赤死ハ大将来村長門山右馬
内夜新十井上小那忠の赤也赤村主斗ハ林
系をいさく教別々合戦終に赤負年ハ別

中三河兵上小左衛門とば後浪織勢内番
權右出の討に。そ外お死の敵川崎和泉
波多野兵庫大塚勘次出の篠原右京依久間
虎人平礼亮三帝思木夜七喜山に帝出の
平塚惣と惣早川府主水野谷忠助松浦
右吉村上十左衛門

一 同日夜堂和泉人数一番小夜堂宮内同仁右出の
桑名源次と一番小進と押出防戦に
け道筋是場悪発乃細くして進退を小
る日す敵大勢にて懸合に人不討死渡也

勘玄清新子入替り敵と進立進む和泉
先子とハ新七玄蕃お死すとい（和泉も御本
を以てより返り敵と進て懸合に長巻我勢
と大坂寄合死と一手小成和泉死（和泉
んと彼山に并陣掃部長門と歩勝横越と入
んと懸いさふひを見て長巻我勢と
和泉死矢^尾火とつけ討に

一 同六日又堀より小雨降り大市取振中陳る
星田あり今日ハ又中退面て大坂由緒作由
和將軍様より本九と請久貝忠三帝中使と

夜中より欲出張仕由申上げ申使系と別
城二由立分城二里不と申出由知井伊掃部守
一番首元申由申河野權右衛門と申者系
こんの物うけ小金の丸れうとおをさうくり
毛のふふ系由本多上総及懸由目度と申是
ハ先年上総及荒と辻堂院を仕由家元を由同
所系に出申候由何と申上総分くらうかり廻り
さうとて市系は令同道由地を市感分城別又居
七拾ふ方ニ居城申仕由を申出—申逐り世感
由地を父見—所涙い—色を何けようこ

ひ中山別權右衛門と父と一町に由仕仕由地と
井伊守由地と未掃部ハ不申由同にても此
来りニ居掃部可申由申由申由居掃部由
さうやきとさうり伽羅の白ひふう—由地
家後のう—なるう振にあま—もの—由感
分城由星田—由押分城由道—首百ふ申生捕
二人系由本村長門山に在馬も掃部守も申
進上り由長門も首ハ—これ申由—を
由覽分城由去年もお城さう海き長—由地
おの白ひふう—の—を分中山に在馬首ハ

前發有し其白クせんぜりナリ是ハ松平重助
左吏前の小男なり右ノ女房より年離別仕合ハ
他人より其首のしるふけ首吊願仕吊ひ
中交中より右忠の妻より別星田にて寺
納豆湯陳お海海葬礼佛きていひひは
此生捕ふ人の中二人ハ右忠のハ頻々人ハ上野
中死す一人歎陳の儀を以て尋て其成中より
其下ハ沙ハ皆所成敗六日一日當時分平島
中島
一右ノ松平右忠ハ中死其成中生捕歎方より

中尋其成後右忠の妻ハ其下ハ
永井平重なり
右忠の妻ハ二百石なり

一七日ハ朔七日也大所不極中出張任者ハ中押
て其成中より湯出時日六日掙動和泉日向其成
大和元以下其ハ外骨折中ハ同今日ハ
大所不極中先其氣元將軍極中先加賀元ハ
作舟ハ同昨日ハ元ハ中旗本ハ中先子也其作舟
中其舟任者ハ押られにて中旗本ハ中其任者ハ
中旗本中中中使番豊海之膳同官權左忠ハ
其人ハ其妻時日中先ハ骨折中ハ元ハ其後
ハ七日ハ時分茶磨山ハ五里前其

將軍掾出_レ成_レ中_ニ駕_ニ傍_ニる_ニ所_ニ目見_レゆ_ニ成_レ中_ニ多_ク依_レ渡_ル事_ニ有_ルる_ニ近_ク系_ニ將軍掾_ハ中_ニ上_ニの_ハ大_ニ所_ニ掾_ハ茶_ニ磨_ニ山_ニ上_ニ押_テ成_レ中_ニ同_ニ將軍掾_ハ是_ニ山_ニ上_ニ押_レゆ_ニゆ_ニの_ハ中_ニ念_ニ中_ニ將軍掾_ハ柔_ニ磨_ニ山_ニ上_ニ中_ニ念_ニ思_レ召_レ使_ニ再_ニ三_ニ依_レゆ_ニゆ_ニ大_ニ所_ニ掾_ハ中_ニ念_ニ今日_ニ此_ニ日_ニ中_ニ流_レゆ_ニゆ_ニ何_ニ成_レ去_ニ年_ニ陳_ニ場_ニ中_ニ陳_ニ中_ニ成_レ中_ニ念_ニ我_ニ中_ニ初_ニめ_ニゆ_ニ中_ニ就_ニ中_ニ意_ニ成_レ中_ニ念_ニ將軍掾_ハ中_ニ上_ニの_ハ成_レ中_ニ念_ニ政_ニ宗_ニ系_ニ中_ニ上_ニの_ハ中_ニ念_ニ子_ニの_ハ子_ニ何_ニと_ニや_ニん_ニ味_ニ方_ニ中_ニ念_ニ送_ニゆ_ニ者_ニ有_ルる_ニ振_ニ中_ニ念_ニ

同集を去年一陳場せんを糸逆心者中
度より折れて中中より同むる就中成
帝意政宗大軍を押し中
一七日款東西一押出—一面に彼をうてひる
中より同大市而極中先子我前元也將軍極
中先子加賀元なり我前元—先子中多
候更中多飛彈款—我元見く合我—初て
中々と々お淡重中合い—付る加賀元と子
乞合一同—合我乞初て中—めふれろ—を
あけ中—加賀元—方—のろ—をあけ中

此是ハ款案の不_レ久_ニ大_ニ懸_ル廣_ク陳_セ中_ニ
より付_ル味_方此_レは_レ倭_ノ脇_ニ倭_ノ本_ノ多_ノ阿_ノ波_ノさ_レ下_ニ走_リ
出_ル一_ノ款_ノ一_ノ面_ニ倭_一合_ルる_レ波_ノ是_レ際_ニより_レ同_ノ
の_レろ_一を_レ合_ル中_ニの_レ時_ノ刻_ノ授_ケ中_ニる_レ戦_ノ前_ニ先_ニ
手_ノ本_ノ多_ノ方_ノが_レ將_ノ及_ニ一_ノ軍_ノと_レ初_テ中_ニの_レ中_ニを_レま_ニ
け_レ時_ノ戦_ノ前_ニより_レ功_ノと_レま_ニ一_ノ梶_ノ系_ノ貞_ノ濃_ノ
を_レ田_ノ阿_ノ波_ノ菱_ノ派_ノ休_也也_ニ是_レを_レ本_ノ多_ノ飛_ノ陣_ノ中_ニ
二人_ノと_レ死_ハ功_者る_レ同_ノあ_ノの_レ款_ノ此_レ并_ニ今_ノ懸_ニ
て_レ然_ルと_レ好_レ同_ノ指_ノ系_ノの_レ地_ノと_レ中_ニの_レ二人_ノ中_ニの_レ我_ノの_レ
三_ノ列_ノ同_ノ東_ノる_レ二_ノ百_ノ二_ノ百_ノ一_ノ款_ノと_レる_レ毎_ノ交_セり_レ合

中_ニの_レ我_ノの_レ廣_ノ場_ノる_レあ_レ万_ノ二_ノ万_ノ一_ノ大_ノ款_ノの_レハ_レ懸_ル中_ニ
今日_ノハ_レ我_ノの_レ我_ノも_レ同_ノ意_ノの_レ地_ノと_レ何_ノも_レ次_ノ中_ニ中_ニ
本_ノ多_ノ倭_ノ豆_ノ中_ニの_レ時_ノ日_ノ云_レ倭_ノ一_ノ中_ニ下_ニ知_セる_レ何_ノも_レ
掙_ノ船_ノ及_ニ和_ノ泉_ノ及_ニ元_ノ手_ノ柄_也也_ニ是_レを_レ波_ノ皆_ノ子_ノと_レま_ニ
の_レ中_ニ走_リ今日_ノも_レ公_ノ正_ノハ_レ何_ノも_レ同_ノ意_ノナ_リ一_ノ
期_ノも_レ只_ノ合_ノ戦_ノ也_ニ初_テ中_ニの_レ中_ニ評_ノ定_ノの_レ地_ノ一_ノ款_ノ方_ノ小_ノも_レ
何_ノも_レ法_ノ合_ノ有_ルの_レ式_ノ戦_ノ前_ノ死_ノの_レ向_ノハ_レ小_ノ森_ノ豊_ノ前_ノ
白_ノ旗_ノと_レ倭_ノ中_ニの_レ地_ノと_レ高_ノ田_ノ赤_ノ旗_ノと_レ倭_ノ也_ニ之_レ皆_ノ中_ニ
け_レ志_ノ不_レあ_レひ_也也_ニ見_テ戦_ノ前_ノ死_ノ馬_ノ系_ノに_レあ_レ騎_ノ是_レ倭_ノ
也_ニ連_ノ系_ノ出_ル一_ノ倭_ノ地_ノと_レ赤_ノ軍_ノ也_ニ初_テ中_ニの_レ是_レ也_ニ

見て本多出雲岡北出合戦を初戦に我軍
龍宮前、馬門通を打破城の中へ押込本多
出雲組は白旗の森豊前なりけり敵討て外は
くわい出雲一組、味方秋田城、今志田河内
六々々、庫須賀、折津、龍宮、実山、浅野
宗女家来も大勢交る討死本多出雲家来
久保田傳十郎大系お右出の柳田左馬允小麻
呂馬助何も名宗光子と雖も合戦中使番龍
見軍中より大所不極に中より討てられ
乞ふ濃き方々感状を出一中より中絶する

手負中より小産田傳十郎諸高級若狭石川令孫
迎友五郎左出の小森勘左出の門田次重松浦
隅右出の川崎市右出の宇佐兵右出の内藤
五郎作あり出雲組より龍宮、実山、これ合
戦軍、くわい出雲組より龍宮、実山、これ合
戦中出雲より小麻呂のくわいおる百里と云馬
宗日比大カ、濃勢、五郎の人、くわい、去年の市、
大所不極に作りの奇場、近所くわい馬の足
くわい、敵中より迷惑奇場、くわい、近所、
討て、水、立腹、くわい、心、くわい、是、那、晴、成

歩死に仕と好依られと秋田城へ分六々以下迄
尚されぬぬ一系出ひつやう者た何とて同
と通しぬゆ中多出雲安と名余の如き押
来款大勢とて五竜中の出雲小治と大屋
作ら出つと中家来余の歩兵三人と左右前後
よとて向款二人実為馬る安者たのりた
と一と働ありとをいつて見へるぬ款豊
前が足腰とてて紐の物と名中の歩兵
迎く余の活抱る出雲馬の腹を歩ぬ
の同則馬より為ぬ死にぬと一静

居中のぬ一款押懸首を死にぬといふぬ
出雲記るより長口と款二人実伏在活抱
歩の者た追懸切伏ぬ款大勢とて守り
歩底十七不負討死と大屋作ら出の死骸
を枕といふ同討死と出雲馬中を歩
死のゆは加茂忠左衛門小野勘解由中根様
山崎忠右衛門石川半次郎大系長五郎村
我成と舊旧様七と舊吉山とた出の版平次
稲毛市席と舊古橋加と舊古庵と市作
大將と死に討死と不為後陳ハ松東陳ゆぬ

款を初ひくりに同悉ぬき中け款け
初ひ小柳系を以て守り小笠原方へく小笠
原を以て同任濃重なるより歩死と思ひ定め
来るるれハ幸くよりく相懸懸て今
おしまき防戦安藤對馬を先々をり居居中を款と
くひ中より同市橋中元中くけく敵くまとい
一將軍極々此系源六を以て使市合我中初
は成山由は作を以て使未由中く付將軍極
駕を以て進中腰を令めさいを以て中めく
中よりゆてめれと市知を以て同中馬と元
何者も歩を初ひくりに中中馬と付て居る

于時第ハ

于時種多傷

を井上主斗既極村出羽同被前二宅跡次
を傍牧野又十市二枚宗に市安藤息助酒井
下総是田重也也付外歩兵共人斗中駕く
居在り也

一市市極中先子天王寺表ハ被前少將殿款ハ
高田左衛門伴本七市右出福清保縁市同多痛
其東南庚申堂前ハ本林豊前市東七組市組
將軍極中先子ハ加賀元是山表く款ハ大野
主馬なり津川左近秀頼く馬市元願け
向味方く備ハ茶磨山く東南ハ被前元なり

その柳系を以て小笠原を以て浦本多出雲
友堂和泉并伴柳郎政忠山表中先子加賀丸
部方今相討つ小大の儀を廣くして合當
加賀丸先子も是小たて合す應るた先
本多阿波守山崎長門以下先子一面小くり出
るるに中旗本青山伯耆守水野隼人押
出して儀を以て計東山ハ本多伴勢守戸桐
市正同主膳宮本丹波石河伴重守

一 高田人數と我前丸發炮せり合初めはを見て
本多出雲宛前小くり毛利豊前トお我打死

小笠原兵助又子人數を二倍小りけ儀は丸部
の勢ハ先子陳した（出先子ハ竹田永福とせり
合賜て溝を越え立毛利豊前う後を掩ひ
ううんとす子息は濃守二陳はう溝を越
進む大野修理小笠原う右儀と打先子と
助せり合の如き前う勢修理う後陳はう
進免て横合にかり来先子う右儀と打交
して先子う先悉討死家老二本勘右生ハ小笠
原水崎立内膳武者守り若波平左生ハ是將
大将二本勘右生ハ浅香左生ハ元矢野守孫

白岩市に在り大日向次郎に在り森下首を傷
百米次郎右出の清原源次右出の武井源次清多
井六を清原右出藏し助珍本九市右出の討死
を助も馬上より十文字を以て突合をうけ
けり馬より下をうて赤合を是に依り馬
上より突合をうて敵大将をうて見て清十を
めて清をうあけ終る首を赤を助にうたす
助二人をうて之に切てうり敵敵を
る堀に申へ突合より突合をうたす家来に人
出来敵と相戦同小將軍極中旗をうたす

られ城小も火より見え一の間敵にうたす
家来森尾助解由横川佐野右出の牧原源次
源次清に人よりうけ久法寺へのけり
を助源次六ヶ不大學源次にうたす不也を
よお續て保科肥後をうたす比見と不和
めて宰人よりうたす今日小笠原小お續て
此一和めて源次負け死に見ゆれ集人より
家来肩小引けけ九市次郎と小姓
敵と防過して赤死す是ハ中務保正を
うたす助源次と中者を助小姓をうたす

系極子安發見中少て後日二條少て中尋時
也計中上の也

係くた源をい
六年大に抱ふ

一 欲明石掃部西園く子南に仙波、陳五多天
王寺表く味方敗軍く見地山同天王寺く
向ひて討死て仕く中池系生禪く坂多色
とあけ切懸山同味方く先子元款ハ敗軍
とねる、河ひくり山にさひく欲実をい
り付七子組く元く即ひ系山石中先子何も事
とくく大花と散くお我大番元山回
清吉吏權田平吉吏海色平六寛助を傍

何我高石院く高本之水自身働中組と討
死く元林友に帝大忠に帝系谷小徳漢筒井
甚く助同官居五帝水也書院番吉山伯耆
山花畑水野集人付款、後合大、働組く元
高名仕討死多伯耆組と討死古回左連大
鳴友多野一長頼母腹部三十帝松倉
秀人別不主水亦也右く古回左連ハ織部
子也又ハ不忠く者多れく子ハ味方と討死
又此一色頼母ハ中村或部中浦、属く玄慶長
六年九月十日濃列勝山卜く於清目通

討死仕山より伯智と家以縁の時又出
今度又討死仕二代に討死仕比於俄なり
隼人組と討死仕松平庄九郎松平助席
築田平七子息権三郎山崎助次席山に
小平次也也計築田平七父子討死具跡家を
つとふ子もあらずにけ家縁平滅小衣成
儀也公方極湯逆逆歌系中下知を以何も
候へ働高各仕是を見て馬止中下姓元
系也何者ありと見ゆ中下小山長と愛治
又及助あ人の致高名山院同中供と面と何

由先と系結と外中駕と系無人と井上と丹次
于時中馬と系小系在桂村出村も同儀前も
三宅次多湯酒井ト徳也牧野又十席軍
是助右に供奉いへと系在井上ハ何者あり
系席山白後少湯先と見おて中中と見ゆ
湯先と系中の中忠良と比教見ゆ中の中脇小
成火の子あり山白後とと討死首大方系
磨山と先持系仕是山と系ハ中多能也坂崎
出羽中多中書るとハ先 將軍極と系り中
坂崎出羽家来一人と馬と系ゆる首二つを持系

あつゝ市駕へ来り目通に糸より巾通を
張るゝ杭をを見く何者あれを巾せくさ
市前近きゆへに巾歩ゆゝ杭巾多見え杭
巾相撲ゝ杭二三人馳向ゆる割ゝゆへに
崎出相割の首二の指上るより巾り首を
を家来にもせ世を引さけゆるはくをひ
張るゝ杭ゝささ市前ゝ方ゝいゝ一張るゝ
と相撲杭大平角助割ゝゆる杭をな
巾出相割ゝかゝんゝて巾折る糸より
巾糸通ゝ多ゝく糸礼ゆる糸面月ゆる糸無ゆる

糸降るれより糸磨山へ糸折ゝかゝんゝん
巾糸通ゆゝ巾

一 大坂城中へ火の手をあけ巾ゆゝ大坂巾基
あり野人大角と右出ゝと巾小角成者並日
板倉仔賀も方々巾通は臺を方より火を
さゝ巾ゆゝ巾通ゝ火の手あがりふ巾ゆゝ
今日を縦巾勝小角成ゆゝも落城小角同と
リ一あ日も巾合戦で有りと諸人巾火の
手とやゝ巾けり同合戦中にて味方と
と見くさるゝ巾割のなやゝ敗軍はゆゝ

よりおし大角ふ右連の 系部、安法仕舞在
大坂より焼金数多ひろいあつめ持来一生
福矣にて久後在系中いされたり子有ハ云々
絶中山火の手を上げハ来ノ別也
一 今拥軍を初ハ我前元をれ小續白加賀元
高田毛利豊前陳を入習ハ一ハあハ小族
抱を赤かけ本多飛弾同俘豆堀丹後等相
並て責我ふけ款三回元也大野修理元我
前元ハ本多出雲と組ハ突ハ出雲組
秋田城ハ分ち為れ浅野宗女六々元敗北

出雲け款を返還一 赤死我前元を志回ハ
手二つふつとより城中ハあハ一ハ八町
町ハ系部火をわけ引
一 志回ハ後数度お我味方敗軍ハ一ハ
本道より二町斗りき回の時。腰をうけ主
従二人休ミ居ト人々来るハあハ一ハ在ハ
不我前ハ是將既西尾久代後号ハ者是將
ハ石連ハ一ハけ赤死中ハ
一 赤宿我前ハ勅を傳ヒ久後我前ハ在ハ
見知ハ野中在通ト者ハ一ハけ云々

けし間ひ返しお錢も死中の右邊剃首
乞死中の右邊も指乞死中に死にれ中の

を
中
右
も
指
を
さ
れ
中

一 大市不極便者、市押、威、以、以、市、先、子、が、便、者、
市、先、子、は、款、出、張、中、市、先、子、も、向、ひ、中、り、と、市、
押、を、威、業、磨、山、の、方、へ、市、馬、を、向、ひ、同、市、
先、之、以、市、鎮、奉、り、る、と、却、る、市、鎮、を、押、立、
系、以、同、市、押、前、へ、次、身、に、先、威、中、り、る、市、陣、
過、り、る、鎮、を、以、抗、逐、惑、を、威、以、又、市、先、子、已、
後、之、之、合、以、市、鎮、を、有、く、依、く、久、世、に、市、坂、那、
三、十、市、先、子、以、市、先、子、は、市、鎮、を、以、右、兵、果、督、殿、

市井には款出強中流先子も向ひ中流と云

甲子成業磨山の方へ馬走と新向山馬走

先之由是裨奉乃為却而為之押之

系以同歩押前一次身即先ニ威中ニ以爲清陣

過而無旗者乃亢遂惑之每歲以又作之已

後之令由近有之世三帝城郭

二十帝を以て世を以て兵を管

常陸介及軍之智成度思召以周

哲合戦乞^と初め予馬を二三町^へ走^し

自下立能^と持靜^にかり
 中下能^と持^り

新修志右
 乞情
 智度常
 陰分及
 同
 爲

同官在堂
壽多見之長之帝

わ

少使子人教少押以以作絨矢風境一時

斗中彦以爲人
子孫^と食^と書^と詩^と成^と以^と不^と可^と

將軍極
一
合戡初
成以中
來以昌
是

古市馬、石市押、石成山、市将、東八、系、是、市、羽、藏

又淺葵の巾帷子迄石湯あり芝石武者を

ちをめす 松平右衛門 中澄 なかつら を を 通く

糸のり馬馬に免しし時馬具をせし出
る進上つりかくりしゆねも汝ハ何に好て
うねに中しゆねと馬を成中おし
磨山六十町斗糸少宮木立有く不しゆ先
横田是右忠の糸馬先の歌ハ折負ゆる糸磨
山少少ゆね我糸元進組合我仕ゆ
駕と糸糸ゆ見お糸ねゆゆと中し是ハ我糸
元馬田と池合ゆる合我く完糸是右忠の
河進糸ゆね軍陣し中ね紙又ハ味方
いふゆせんとのふね中ゆ何を功に
いふ

古実をねゆけ大所不極馬使し内は二通馬
糸馬一ねく大軍ハ一万二万の歌をもあ百
三百るおもれそ何を下馬いふありき
糸ゆねとあゆ下知り何もありしと進を持
て糸馬ゆ右の傍智及常陸介及ハ
糸使役者糸馬おし糸成の管のゆねは歌出
同馬合我初ゆ同馬し中我ゆねと糸は我
同馬あ人候畏る糸ゆと中我ゆ中道は馬田
のうまいるく糸糸ゆ人致思ひしふ糸
馬馬糸もはる天王寺近中糸糸成安

中多作後寺寺先折く一組を正連宛前
榮磨山へ押を榮磨山を正榮磨山の邊款
高田へ陳床る人教か一跡ゆは作後寺組
大勢迄之系ゆは跡ゆ北仕作後寺榮磨山を正
くく先ゆをくく正中陳に系子息上野ハ
父子く人教ハ家をく中付我身ハ令のま
り小態のま跡きを付く予をくくせゆ
二三人正連榮磨山に系ハ大市正振榮磨山
近正正成中折ゆ付上野家来ゆえくるふ家
後地二二三の折立ゆ付後地る味方證さたり

う切ゆくくよりゆ白西ハ天王寺東
是山正連一面ありて南へつれ系ゆ付
くかこくまき大和に系ハ人教迄くつれ
見昔後寺限正中折ゆひきやく者たり
中志ゆり正成中系出て正振く正成中系
中馬死に正不致ゆ同中馬取の正中折ゆ付
ともちるゆ一不中ゆ右く後地折ゆ来ハ
大勢か押ゆりゆ馬不こりるあこりこり
不中ゆ折のふけ田清折ゆ人通り
そ白ひ折晴ゆ白中えく系ハ味方ハ人教を

く見ゆ中より同歌と好む所懸中より石巻産物
 八木下君に帝一人宛に捕ゆる引たり余の
 右に通中より同物なり——此成中より一
 成の趣少中押ゆゆも大のてあかり中より
 板倉内膳を為す使中合戦中勝利中屬を
 中より経書けし不る小笠原本多政人より死
 骸をふるひ通中よりなく桑磨山より湯
 あよりゆゆも右に傍智及も常陸及も中
 より而目見ゆ成中今日少遅ゆる湯合戦中
 たりといふ不る成中少多思ふゆる中意也者

去年、陳和が清陳取らばと清意を清瑞
張威の付將軍極清出に成りて清せう
より清立向ひして中合戦ハ思召し候へる
中合戦能思召し清意は成り將軍極清上
のいある年馬は出り放今日も中合戦中勝利
なりける近習に仕山若輩者有るに云ふに
示す好く清礼は終上ぬ于飯乞は進後こ
日も晩山同清瑞ける清陳不能死作射く
清意は成將軍極清瑞は成秘ありて
一子より首乞を持来しか賀儀前首

三子斗為持系達 上野の地を將軍に持系
の地と持意は成のとき中多能登坂傍出解
高名仕持系中 市目見は仕のさう 後上総分
反持就の白上野披磨中 少は足服を持就
は成持云もか らす上野是は持意ありたて
市目見は仕のさう 今日ハ何をして居る
斗持意ある家老もふも持河とさうす花井
三九帝は持意ハ保一方ハ前人は見地ハ同
上総者をさきせめて乳妨成ともさせぬ
持河ハ同則花井持系を立系ハ上野上総

一 中ハ持陳和ハ中火の色とよく持河
と中上総及中序は成を後中勅高は持
河とさうす少同ありて持系少將及中成
市目見は成の地も 今日ハ中子持は成ハ
中秘藏ハ持孫なりと中慶長ハ持意有
くその後施茶院山岳ハ市目為上使ハ是系
云那并大子底ハ根子ハ中尋ハ下伝濃也
討死ハ中吊ハ成ハ中上意也云那ハ相果中ハ
一 七日ハ晩斤桐市正ハ市中ハ地ハ城ハ案内
者ハ地ハ系相ハ城ハ入焼沙ハ系ハ火ハ

うけさせ境をうひ居るに於て人々
大勢新居の神見の中の人をきく事あり
く見申すに秀頼が威風凛々修理中受る
竹田永福氏家内胎中居る中袋換も中居る
女中おし見申すに同則る旨をあの上様
中上げ市正秀頼の家老として去年迄
之に忠臣也去年より不慮に君臣不収
の成といふも多年にわたりみまじすれ
ば情大市不極に中上げ事ふ小侍に此中
意と諸人公事の中よりとより市正病者

いづれなくしに計合致し後百日程中
亡ひ果てし孫も後小の縁をてうり也
一 大市不極に中上げ野をきく中見しに
之類秀頼の事度山の中居る將軍様
并侍御をきく事度山の中居る將軍様
番を仕居る大市不極に加へ凡氏如豊徳
之胎あ人為中使系の將軍様安成討馬
込夜石見あ人系侍御と相談仕加凡豊徳
親の肉々大野修理をい出し上意に旨を
中渡是ハ秀頼に令え中助を成り野に事

上を以て湯袋に一万石を注ぎ進みの儀なり
修理中の秀頼は、何様にも見え申合点い
させて申し、湯袋申し、水引申し、
爰と好しく申し、入中の修理は、其の
相成むる面、少く負ひる茶あり、
のち、さうさ仕、その時、速水甲斐守、
相成中の代、能く作付し、人召二位、
局、系、以、知、申、出、一、成、以、是、ハ、内、二、位、
乞、申、不、便、思、以、成、一、中、以、其、後、申、袋、
申、合、点、も、以、氏、家、お、合、一、申、同、の、り、お、二、二、丁

申、備、以、知、中、來、家、お、一、丁、な、一、て、ハ、
少、召、申、馬、乞、て、進、申、押、部、申、中、以、是、ハ、秀、頼、
乞、延、て、一、り、て、申、た、め、ハ、申、中、以、一、見、ハ、
然、々、押、部、對、馬、石、見、二、人、談、合、一、て、
大、所、不、極、申、申、進、申、以、急、悲、ふ、一、け、上、ら、も、
湯、桶、申、狀、あり、申、を、申、助、て、申、中、候、一、と、申、好、以、
と、一、く、一、此、首、尾、一、成、一、好、明、以、一、と、然、一、令、
因、談、談、地、二、の、申、を、以、知、ハ、候、申、同、一、り、對、馬、用、
爰、仕、以、氏、者、自、害、仕、候、立、中、以、切、腹、仕、以、
秀、頼、大、野、修、理、速、水、甲、斐、守、對、馬、助、大、野

義人高田大物渡辺月義助氏家月膳津川
左邊伴東武義系極肥家桓宗八義市袋
中依女中大義々右系正永饗場宮内々
一八日辰ノ刻 將軍極柔磨山々義市彦市
目見々義成右無傍勢殿常陸介殿市連彦
依後上野市刀韋人相永被何云去居大煩
取々市依々系々市々市永々不張出極白
將軍極市序計時ハ何々市相織斗也
一其跡々義市元西尾仁左邊門高田首々討五
持系仕野本右邊々中者市宿義家々首々

并五持系仕市宿々首ハ何々國東元々知人
多々市々見知々者教多市義山々義市宿々首
々市市義山々市々市
一高田左邊門首市燒々義山々高田々市々者々ハ
五万石も十萬石もて々市下市根々兼日市意々義
山同男々討五市山西尾仁左邊門々々々義市目
見々市獲負々市意々市々市々首尾々市守
々義山々西尾ありてひ小根子中上市々跡
中感て々義山々少能中々て然々好々市家後々
跡々市強々働々市自分小々市々負謝々

悲歎也として帰し者に下り同族謀令成
敗首をけり長男我部小八中の門惣若ら
と中者分居中の蜂須賀河波も亦来長坂
三市右忠門と中者生捕進上り長坂小八
中獲火金子百も下り中の門と蜂須賀河波
中清の者河波も下り中と

一 竹田永高首 佐久間大膳元々亦
討進上り

一 亦一日秀頼と他服と若君若君と有る巨捕
中系りる若君とを六條川系る成敗名を
國松殿と中千石宗也子息も同時成敗をも

一 六支斗佐右院孫も美人切腹古田織部も切腹
中仍分中檢使ハ門友右忠門尉なり織部ハ子息
山城江戸に活させそ亦た進も中と云り
將軍極討介は至中目より如云と中連歌
師薩摩の力なり織部不に在止山是を侵
て大坂の津方と中作下事及あ度山又
織部孫の助と中者宰人に成大坂の政統
城今度大分と中織部がた道宗存す小
如云等大将也中極成重くも終に如計
作分

一 同廿七日柳系遠江守死去二十六

一 六月十五日大市町柳系系内

一 六月十八日豊國社大坂一橋守の山に

定又不入中事、依渡中、上の柳系社

其まゝ、由立、重、大、普、薩、贈号ありて佛

小まつりて、中、中、中、沙、有、公、家、元、門、の

元、何、我、智、者、步、合、お、淡、あり

一 同六月十一日青山石見守於伏見切腹、授

使青山伯耆守大坂通出也

一 同六月廿一日公方柳系系内中依元五人

父忠功、功、感、成、山、中、官、位、作、付、政、家、

任、宰相、加、賀、一、家、中、横、山、山、城、本、多、阿、波

諸、左、吏、作、付、中、依、元、中、中、多、作、付、

神、尾、宮、内、成、瀬、作、付、戸、田、家、女、正、安、夜、候、

一 同廿七日二條、於、清、城、中、依、元、

一 同廿七日二條、於、清、城、中、依、元、

一 同廿七日二條、於、清、城、中、依、元、

一 同廿七日二條、於、清、城、中、依、元、

一 同廿七日二條、於、清、城、中、依、元、

一 七月十九日、公方柳系見、元、市、立、八、月、に、日

大市不極二條^二之^三也

一 刑^二武家諸法度^三

一 文武弓馬之道專可相嗜事

一 尤文在武者古之法也^二不^三不^四無^五偏^六矣弓馬

一 是武家之要樞也^二是^三兵^四為^五凶^六急^七不^八得^九已

一 而用^二治^三不^四忌^五能^六何^七不^八局^九修^十鍊^{十一}手

一 可制群^二欣^三候^四遊^五事

一 令條不載嚴制^二時^三重^四說^五好^六色^七業^八博^九奕^十是

一 亡國之基也

一 肖法度^二軍^三不^四隱^五立^六於^七國^八事

一 法是孔^二孟^三之^四也^五以^六法^七破^八理^九以^十理^{十一}不^{十二}破^{十三}法

一 肖法^二類^三科^四不^五恆^六矣

一 國之大小名^二諸^三人^四名^五相^六抱^七士^八卒^九有

一 卜^二為^三逆^四殺^五害^六人^七告^八速^九逃^十出^{十一}事

一 夫^二揮^三野^四心^五者^六為^七震^八國^九者^十利^{十一}急^{十二}絕

一 人^二氏^三之^四稱^五也^六豈^七足^八允^九容^十乎

一 自^二今^三以^四後^五國^六人^七外^八不^九受^十主^{十一}他^{十二}國^{十三}者^{十四}事

一 凡^二因^三國^四之^五風^六是^七矣^八武^九以^十自^{十一}國^{十二}之^{十三}密^{十四}事

一 告^二他^三國^四武^五以^六他^七武^八之^九密^十事^{十一}告^{十二}自^{十三}國^{十四}之^{十五}密^{十六}事

一萌也

一諸國之居城雖為修補必之云上一說新俄

構當望令停止事

城過百雉國之害也後曼後漢大形也

一於隣國企新俄結統黨者有之早之改云

上事

一國人有言蓋又少達者是以或不煩君又或忽

遠隣里不守憲制何企新俄乎

一私不以結督姻事

易略曰通
夫婦合去陰陽和同之道也不可容男女

婚媾志將
通冠則夫時

以正督姻以時國之緣氏也以緣成黨

是茲謀之也

一諸大名系初作法事

續日本紀制曰不須公事恐不得集已族

系裡二十騎以上不允集以云云然則不

之川率多勢百万石以下或拾万石以上不

之或拾騎拾万石以下之為其相急蓋公

役之時之隨之分限矣

一衣袋之系不之混雜事

君臣上下之為各列白巾他繫拾袋束練也

紋、小神、巾、兜、襷、不可有、着、用、近代
帝、從、諸、率、後、羅、綿、綿、等、飾、服、是、此、居、
一、難、人、恐、不、之、宗、興、事、

古、來、係、之、人、之、巾、兜、宗、家、有、之、後、宗、
家、有、之、統、也、來、及、家、帝、諸、率、宗、興、城、監、
明、之、也、統、白、後、之、國、大、名、以、下、一、門、之、曆、
之、不、及、巾、兜、之、宗、之、可、服、也、之、元、并、殿、南、法、支、
一、道、或、六、拾、以、下、之、人、或、病人、亦、巾、兜、以、後、之、宗、
家、帝、從、率、恐、之、宗、之、之、人、之、為、誠、也、
但、公、家、門、以、諸、也、世、之、元、之、服、制、限、

一、諸、國、諸、侯、可、之、用、之、條、約、事、

富、者、亦、濟、貧、之、恥、不、之、及、俗、之、凋、弊、之、甚、
於、計、不、令、嚴、制、也、

一、國、主、之、攝、政、勢、之、急、用、事、

凡、治、國、道、在、以、人、家、切、也、過、矣、得、必、由、國、有、
古、人、則、之、國、亦、數、國、之、昔、人、則、之、國、必、亡、
是、先、哲、之、明、滅、也、

右、可、相、守、所、旨、者、也、

元、和、元、年、甲、申、七、月、日、



